学校番号	３０２

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	最新　数学Ⅲ　（数研出版）						
副教材等	３ROUND　数学Ⅲ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働して考える活動を行います。
・分からないところは、先生、友人に積極的に質問しましょう。
　分かっている人は積極的に分からない人に教えましょう。他人に教えることで自分の理解も深まります。
・問題集用のノートを用意してください。
　問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
極限，微分法及び積分法についての基本的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学化したり数学的に表現・処理したりする技能を身に着ける。
【思考力、判断力、表現力等】
数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力を身に着ける。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	極限，微分法及び積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第2章　極限	第1節　数列の極限 1. 数列の極限 2. 極限の計算 3. 無限等比数列 4. 無限級数	a: 無限数列の収束，発散に関する用語の意味を理解している。 無限級数の和の性質について理解し,それを用いて無限級数の和を求めることができる。 b: 無限数列の収束，発散についての内容とともに,記号を正しく理解している。 無限等比級数の性質を利用して,無限級数の和を考察することができる。 c: 簡単な無限数列の極限を，グラフなどで直感的に考察しようとする。 「項を無限に加える」ということを,数学的に定義する方法を理解しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察
	第3章　微分法とその応用	第1節　導関数 1. 微分係数と導関数 2. 積･商の導関数 3. 合成関数と逆関数の微分法 4. 三角関数の導関数 5. 指数関数の導関数 6. 対数関数の導関数 7. 第ｎ次導関数 9. 媒介変数で表された関数の導関数	a: 微分係数,微分可能の定義と,その図形的意味を理解している。 b: 微分係数の表し方を理解し,その図形的意味を考察することができる。 c: 微分係数の図形的意味を考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察

2学期	第3章 微分法とその応用	第2節 微分法の応用 10. 接線の方程式 12. 関数の増減 13. 関数の極大・極小 14. 関数の最大・最小	a:導関数の符号と関数の増減の関係を理解し，導関数を利用して関数の増減を調べることができる。 b:平均値の定理を利用して導関数の符号と関数の増減の関係を証明する方法を理解している。 c:関数の増減を導関数を用いて調べ，解決しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察
	第4章 積分法とその応用	第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分	a: 不定積分の計算では，積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 b: 積分法が微分法の逆演算であることを理解している。 c: 分数の形で表された関数の不定積分について，関数を変形することが重要であることに気づき，考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察
3学期	第4章 積分法とその応用	第2節 定積分 4. 定積分とその基本性質 5. 定積分の置換積分法と部分積分法 第3節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積	a: グラフの上下関係，積分範囲などを図にかいて考察して，種々の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 b:定積分が，図形の計量に関して有用であることを認識している。 c:直線や曲線で囲まれた部分の面積を，定積分を用いて求めようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度